

鹿児島島の昆虫 53

フキミなむし・ムシ・蟲

昆虫担当 金井 賢一

昆虫は六本脚の生きもので、クモやムカデなどは昆虫ではありません。昔の人はヘビやトカゲなども含めて、これらの生きものをまとめて「蟲」と呼んでいたようです。

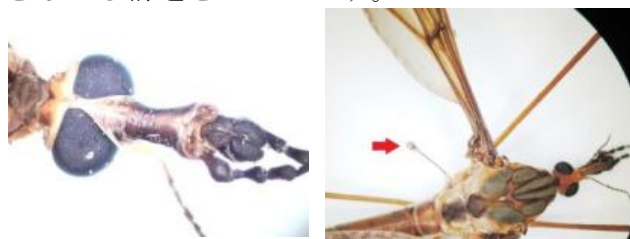


コフキコガネを食べるトビズムカデ

さて皆さんにも何となく「気味が悪い」「ブキミ」と感じる生きものがあるでしょう。なぜでしょうか。「足がたくさん有るなんて許せない」「次に何をするか想像できないから怖い」などが理由でしょうか。しかし、それらの生きものは地球上に現れてから、みんな勝ち残ってきた進化の成功者です（失敗した生きものは、絶滅しています）。そういう意味でその姿形、生き方・振る舞いは、全て成功者としての結果なのです。先入観で怖がることなく、どんな生き方をしているのか、どんな機能を使って成功を勝ち取ってきたのか、見てみましょう。

○ガガンボ

「こんな大きな蚊に血を吸われたら大変だ!」と、よく言われるものがあります。これはガガンボの仲間です。一番大きなミカドガガンボではおとなの手のひらよりも大きく感じます。しかし、彼らの口をよく見ると、血を吸うためのつくりはしておらず、花の蜜などをなめる構造をしています。



ガガンボのなめる口

平均棍

また、「昆虫は羽が4枚」と小学校で習いますが、ハエ、カ、アブの仲間は後ろの羽が退化して棍棒状になり、平均棍と言われる構造になります。大きなガガンボでは、この平均棍がとても見やすいのも特徴です。

○アマミサソリモドキ

南西諸島では個体数も多くよく見られますが、県本土でもたまに見られ、志布志や串木野での報告もあります。甕島や天草まで分布しています。



アマミサソリモドキ



メスは卵を運んで守る

「サソリのように見えて怖い」と思うかもしれませんが、お尻には針が無く、刺すことはできません。しかし肉食で、強力なハサミと鋭い牙を持っています。ハサミをよく見ると2か所ではさめるようになっており、小さな昆虫などをしっかり捕まえます。口にある牙には毒はありませんが、噛まればちょっと痛いでしょうね。



口と牙(矢印)



第2触肢のハサミ

○クモとザトウムシ

ザトウムシは八本脚でクモとよく間違われますが、眼の構造も全く異なり、お尻に糸を出す仕組みも持っていません。



ザトウムシの一種



アシダカグモの眼(8個) ザトウムシの眼(眼丘)



いかがですか? 危険な生きものを知ることが大切ですが、過剰に恐れず、興味を持って見てみましょう。